

国際人を楽しむ

日時：平成17年3月29日（火）18:30～21:10

パネラー：入船光之氏、永谷裕子氏、細越博資氏

司会：福山秀雄

今回は場所を新宿百人町の和洋創作料理の店「青溜」に変えての月例会とした。この店はNMC会員の谷口さんが内装をすべて担当されたという店で、店主の名前の一部である、「青」を象徴する絵を始め、落ち着いた古さに、斬新さを加えた店だった。店主の伊藤さんの料理に関するモットーは、「体にいい」ということで、医食同源的な素材選びと、それらの素材の味の生きた料理が出てきた。要するに今回はいい環境と、良い料理にサポートされた月例会だった。

司会役として、先ず現地を確認すべく、5時には誰かが出ていと聞いていたので、約1時間半前に店に顔を出した。今回は参加者が予想外に多かったので、部屋のレイアウトが先ず心配になった。そして行ってみたらやはり予想通り、スペースとしてはパネラーの席が取り難い形だった。一応出てきていた店の女性の了解を得て、勝手にレイアウトを変えてみたが、そうこうしているうちに、伊藤店主も見えたので、またそのアイデアを借りて、何とか20人が座れるようにした。

ただ食事をしながらの議論は無理であり、パネル形式でやれるのは1時間と踏んだので、予定していた質問をいくつか変えたり削ったりした。そしてパネラーだけでなく、参加者の意見も各質問ごとに聞きながら進めた。NMCのレベルならパネラーは話のきっかけを作るだけでいいと考えたからである。

議論している間は、参加者は日本人だけだった。それだけに話し易かったと見えて、普段なら言いにくいような話も出た。そんな意見はここにもそのままは書けないのが残念である。

1.一番印象に残ったゲスト

①ベトナム②ラオス③韓国、等アジアが優勢だった。近いのに知らないことが多いということになる。質問としても偏ってはいないかという話が出たが、我々自身の興味がそちらに向いていることもあるが、探しやすいことも確かである。それでもハンガリーのように余り情報の届かない国の人は呼んでいる。

2.ゲストに必ず聞きたいこと

これはほぼ一致して、日本に来て驚いたこと、すなわち自分の国と日本と違うところを、風俗習慣的な切り口や、教育制度という方面から聞きたいという発言が多く、政治や経済、宗教で論争するよりも、日常の生活を知りたいということだった。

3.外国人の日本観は変わったか

変わったかどうかはともかくとして、日本語が上手くなった。それだけに日本に関する知識も豊富になって来ている。またある特定の分野に非常に興味を持っている外国人が多く、その分野では我々が教えられることが多いという意見もあった。

4.日本の中の国際化

司会者が事例を挙げて、外国人に対する偏見がまだ大きいことを述べたが、皆多かれ少なかれそんなことは体験している。逆に外国で日本人学校が地元を受け入れられ難かった事例も挙げられた。肌の色に関する感情も皆無とは言えない。

5.幹事側の苦労話

最初の韓国のゲストを探すときには苦労があった。2.のようなことを話したいのに、仲々話が噛み合わないからである。やっと探したのは女性2人だったが、やはり最後には経済的競争の話になってしまった。その後は韓国の人も沢山ゲストで来て貰っている。ただ不思議と、皆女性である。

永谷さんは、ゲストを呼ぶ苦労はあまりなく、むしろ聞きに来る人を集めるのに苦労するという。確かに彼女が声を掛けるかどうかで、参加者の集まりが違う。昔は電話で集めたりするのが幹事の仕事でもあったが、今はその余裕もないので、この心配は幹事がしなくて済むようにしたい。

ここで食事に入ったが、食事をしながら「国際人養成講座」に望むこと、を聞こうと思っていたが、やはりお酒も出て自由な会話になると、もうそれは無理だった。それでも久しぶりに見えた方もあり、料理とともに会話も楽しんで頂いたと思っている。最後には中国の王さんもボストンから(?)駆けつけてくれて、少しの時間だが話げできた。

(文責 福山) 以上

[月例会報告目次へ](#) [NMCトップへ](#)